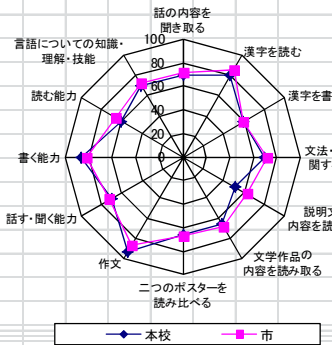


宇都宮市立上河内中学校 第1学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話の内容を聞き取る	69.2	71.9
	漢字を読む	80.1	85.7
	漢字を書く	59.0	58.7
	文法・語句に関する知識	69.4	71.7
	説明文の内容を読み取る	51.1	62.6
	文学作品の内容を読み取る	66.0	68.3
	二つのポスターを読み比べる	66.3	67.2
	作文	92.7	86.2
観点別	話す・聞く能力	69.9	71.7
	書く能力	86.4	81.8
	読む能力	60.7	65.9
	言語についての知識・理解・技能	70.2	72.1



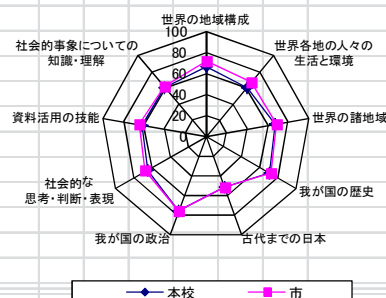
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話の内容を聞き取る	・定期テストの聞き取り問題の結果や普段の授業の様子からみると、話の内容を聞き取る力がやや劣っているように感じられる。早合点して作業を進めてしまう生徒もみられた。	・授業の中で定期的・意図的に聞き取るテストを行い、どんな点が聞き取れなかったのかを考えさせる。また、指導者も「今は何をする時間」なのかを、常に生徒に意識させていきたい。
漢字	・漢字の練習を大変良くする生徒が多い。しかし、反復したり、熟語にしたりして練習する生徒が少ないので実生活と結びついていないと考えられる。	・定期的に漢字テストを実施したり、漢字博士の級を設定するなどして、楽しく漢字の学習ができるようにしていきたい。
文法・語句に関する知識	・文の成分や単語・文節など理解があやふやな生徒が少なくない。言葉のもつ魅力や規則性に気づかせる授業を展開したが、反復学習が足りていなかったと思われる。	・ドリル学習を多くして、学力の定着を図りたい。
説明文の内容を読み取る	・問題提起から、答えに導くための論証の仕方を指導しているところである。生徒が興味・関心をもちやすい副教材の開発が急務である。	・「ふしだかばちの秘密」、「クジラの飲み水」などの副教材を通して、読み取り方のスキルを十分に行う。
文学作品の内容を読み取る	・読書が好きな学年である。また、読み聞かせも真剣に聞いている。反面、主人公の気持ちの変化に気づいたり、真の思いを読み取ることに苦手意識をもつ生徒が多い。	・「蜘蛛の糸」、「杜子春」などの短編小説に親しませ、教科書教材にスムーズに入り込ませる工夫をしていきたい。
二つのポスターを読み比べる	・比べて物事を論じる学習は、討論で取り扱った。大変活発な討論ができ様々な物の見方や感じ方ができている。	・今年度も指導を継続していきたい。
作文	・自分の気持ちを書く学習は、各教材の導入期に扱うことができた。教室内的発表ができなくても、指導者のノート点検などで作文力が育成された。	・今年度も指導を継続していきたい。

宇都宮市立上河内中学校 第1学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	世界の地域構成	66.0	71.9
	世界各地の人々の生活と環境	61.0	67.7
	世界の諸地域	67.6	68.4
	我が国の歴史	69.9	71.2
	古代までの日本	52.0	52.3
	我が国の政治	75.8	76.3
観点別	社会的な思考・判断・表現	64.6	66.5
	資料活用技能	61.6	64.3
	社会的事象についての知識・理解	60.7	62.1



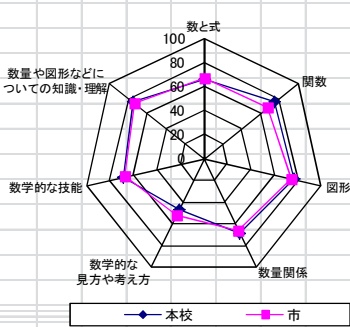
★指導の工夫と改善

領域		本年度の状況	今後の指導の重点
地理	世界の地域構成	・緯度、経度の表し方、三大洋の把握の定着が十分でないため市の平均を下回っていた。大陸名や国名の把握は市平均と比べて同じようであった。	・地理的分野は全体的西の平均を下回っている。世界の人の生活と環境については、興味関心をもって取り組んでいるが、資料を多面的にとらえられるようにさせたい。アジア州の自然環境や産業については、基本的な内容を把握できている。今後、学習テーマについてまとめ学習を行ったり、意見交換をさせながら理解を深めさせたい。また、生活や文化を自然環境を関連づけてとらえる力を伸ばしたい。
	世界各地の人々の生活と環境	・地図と資料を見る問いである。住居や食生活など人々の生活に関わる問いも市の平均より最大7%下回っている。ファーストフードに関しては、市平均を上回っていた。	
	世界の諸地域	アジアの問いについては市の平均を上回っている。特に国の独立の背景を宗教をもとにとらえることができた。	
歴史	我が国の歴史	・太平洋戦争の勢力範囲を読み取る問いには市平均より5%下回っている。東京オリンピックの問いに関しては市平均とほぼ同じであった。	・歴史的分野においては市の平均とほぼ同じである。興味や関心のある出来事についての知識はあるが、資料をもとに多面的に考えることがより大切になってくる。 日常のドリル学習をすることで、それぞれの時代の基礎基本の定着を図りたい。大陸の文化や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、天皇や貴族の政治を展開した古代の動きを、まとめ学習やグループ学習を取り入れ、時代を大きくとらえる視点を持たせるようにしたい。
	古代までの日本	・聖徳太子の政治については市の平均より下回っている。古代の文化、藤原氏の政治においては4%上回っている。・世界の主な出来事と日本の主な出来事を比較しながら考える問いである。人類の出現や古墳の分布からの勢力が存在した場所は、地図を参考に読み取り正答率も高かった。市平均を上回っている。四大文明も7%も市平均を上回っている。	
公民	我が国の政治	・日本国憲法において定めている義務については市平均より7%ぐらい上回っている。権利の問いについては市平均を下回っている。	・小学校の学習の問いであるが、文章問題を苦手になっている傾向にある。日々、繰り返すことで力を伸ばしたい。日本国憲法に関する内容は中学3年で学習することになる。民主的な政治により、国民の権利と義務があることを多面的多角的に追求し、考察した過程や結果を図や表にまとめることにより知識を身につけさせたい。 また、政治・経済・国際関係にも良い理興味を持って取り組ませたい。

宇都宮市立上河内中学校 第1学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と式	65.7	67.1
	関数	75.1	67.9
	図形	77.0	74.7
	数量関係	68.8	66.5
観点別	数学的な見方や考え方	47.6	52.6
	数学的な技能	68.9	66.8
	数量や図形などについての知識・理解	75.4	73.9



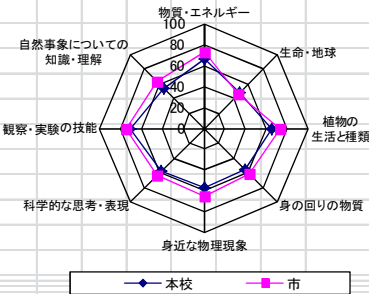
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	正負の数や文字式の計算、方程式を解く問題は、ほぼ市と同じような状況である。 等式や不等式を苦手とする生徒が多い。	基礎・基本の定着のために引き続き計算の反復練習に力を入れていきたい。 文章を読み取ること、筋道立てて考えることができるようにするために、発展的な問題に取り組ませていきたい。
関数	比例・反比例の問題に関しては、市の平均を上回っており、基本的な内容はほぼ理解できている生徒が多い。	比例・反比例の意味や表、式、グラフの関係を理解できていない生徒には、繰り返し丁寧に指導し、関係を理解させたい。 2年生の一次関数の学習にもつながるので、さらに理解を深めるために、身の回りの事象を関数的に捉えそれを利用できるような問題に取り組ませていきたい。
図形	出題されたのは、小学校の学習内容であるが、市の平均をやや上回っている。	3年生の学習内容である「相似な図形」につながる内容なので、理解できていない生徒には、指導したい。
数量関係	小学校の学習内容である「場合の数・資料の調べ方」からの出題である。基本的な内容については、市の平均を上回っているが、問題文から適切な答えを判断し、理由を説明する活用問題は半数以上の生徒ができなかった。	1年生の「資料の整理と活用」、2年生の「確率」につながる内容である。基本的な内容の定着を図るとともに、問題に取り組ませるときに、活用させる場面を多く設定していきたい。

宇都宮市立上河内中学校 第1学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	物質・エネルギー	66.5	73.3
	生命・地球	47.9	47.0
	植物の生活と種類	64.9	72.9
	身の回りの物質	55.2	62.4
	身近な物理現象	56.2	64.5
観点別	科学的な思考・表現	57.4	62.5
	観察・実験の技能	70.3	74.8
	自然事象についての知識・理解	53.5	62.8



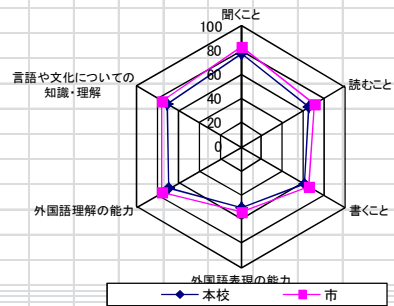
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	てこそものの利用については、経験不足が表れている可能性がある。 コンデンサーや発光ダイオードなどの電気に関わる部品について、理解が不足している。	てこの原理を使った道具を意識するとともに、てこそものを使って、重い物体を持ち上げる経験をさせてみたい。 コンデンサー、LEDなどの現物に触れさせると同時に、それらの役割についてもさらに説明していきたい。
生命・地球	地層の学習における、水の働きについ、理解が不足している。	小学校の学習内容と重なる学習が1年生の後半に出てくるので、その学習で不足を補っていきたい。
植物の生活と種類	顕微鏡を使った観察の理解度は、比較的高い。顕微鏡の正しい使い方に若干の難点がある。光合成に関する全体的な理解度は、市とほぼ同程度である。葉緑体と光合成の関係について、若干理解不足が見られる。植物の分類、花のつくりの理解については、市の平均に達していない。	顕微鏡の使い方が、やや雑になってきていると感じるので、観察の際には、丁寧に正しい使い方を振り返っていく。 葉緑体の存在を観察で確認し、その働きについて再度定着をはかる。理解自体は難しくない内容なので、図を用いて模式的に説明することで挽回できる。問題演習も必要である。
身の回りの物質	密度の意味が理解できず、計算で求めることもできない生徒が40%に達する。 気体の発生方法の理解は高いが、具体的な気体の性質については理解が不足している。	密度の意味を再確認するとともに、計算問題を繰り返し解かせることが必要である。
身近な物理現象	反射の法則については、理解度が高いが、屈折についての理解が浅い生徒が多い。	空気から水(ガラス)、水(ガラス)から空気に光が進むときの屈折の様子を、実験と模式図の両方から再確認させる。

宇都宮市立上河内中学校 第1学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	聞くこと	77.1	82.8
	読むこと	65.5	70.8
	書くこと	60.8	65.2
観点別	外国語表現の能力	51.0	54.1
	外国語理解の能力	69.7	75.7
	言語や文化についての知識・理解	70.5	76.2



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	・まとまりのある英文を聞いてにだいたいの内容を理解することはできるのだが、問いかけに対しての応答の仕方を十分に理解していない生徒が多く見られる。	・英語に慣れさせるために英語を多用して授業を進めるだけでなく、自ら意欲的英語を聞き取ろうとする態度を身につけさせたい。さらには大切なことを落とさずに要点を聞き取り、適切に答える力を身につけさせることが大切であると思われる。
読むこと	・本文を用いての英文英答やTFを継続的に行っているが、生徒の語彙が十分でないため、分量の多い英文に抵抗を持っている生徒が多い。長文の内容に関する質問に英語で答える問題の正答率がとても低く、単語を正確に覚える必要がある。	・読みとりの力をつけさせるためには、多くの語彙や既習の文法をしっかりと身につけさせる必要がある。生徒は一文一文の解釈に集中しがちであるが、読みとりのポイントを指導し、英文の概要や要点を的確に捉える力をつけさせたい。
書くこと	・場面に応じて書く英作文やテーマに沿って書く英作文は市平均を超えており、これは授業の中で慣用的な文章を授業の中で書く練習をしているためと思われる。一方基本的な文法が十分に身につけていないせいか、並び替えの問題では正答率が大きく下回っている。	・文法の指導を工夫しながら基本的な語彙や文法の定着を徹底させる必要がある。書く力をさらにつけていくためには繰り返し書く活動を授業だけでなく家庭でも継続的に行っていく指導をしていきたい。